

『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (其)

ちはやぶる神代も聞かず竜田川
かみよ たうたがは
 からくれなるに水くくるとは
ありはのなりひらあそん
 在原業平朝臣

〈歌意〉

「はるか遠い神代にも聞いたことがない。竜田川が美しい紅の色に、水をくくり染めにするということは。」この歌は『古今集』(秋・二九四番)に出ています。○からくれなる…唐紅(濃い紅色) ○くくる…絞り染め

(在原業平朝臣)

天長二(八二五)年〜元慶四(八八〇)年、五六歳。

ちはやぶる

〈字母〉

ちはやぶる

神代も喜可す 龍田川

閑らく連 奈る二

水くくるとは

神代も喜可す 龍田川
 閑らく連 奈る二
 水くくるとは

中村素堂先生の書

大島香菊様提供

竜田川の「竜」を旧漢字の「龍」に書かれています。書道では主に旧漢字を使用することが原則とされています。(中村青藍)